

受付番号	041
事業区分	経営者研修会事業
実施機関名	〔URL : http://aspgw1.ehime-iinet.or.jp〕 (実施都市名 : 愛媛県松山市)
テーマ名称	平成21年度1日経営者研修会「競争力を強化するための課題解決策作
主催	主催 : 愛媛銀行、四国経済産業局、(独)情報処理推進 機構 (社)日本情報システム・ユーザー協会、NPO法人ITコーディネータ協 会 後援 : えひめIT経営応援隊
原稿作成年月日	平成 21 年 12 月 10 日
作成者名 (公開したい場合のみ記載)	〔資格〕 〔氏名〕 〔E-mail〕 . .
事業を支援した専門家名 (公開したい場合のみ記載)	〔資格〕 〔氏名〕 〔E-mail〕

〔キーワード〕 * 検索のためのキーワード

IT経営、1日経営者研修会、経営戦略、IT戦略、課題解決、金融機関、連携、愛媛銀行、ITC愛媛、西条愛媛、松山

〔テーマを取り上げた狙いと目的・目標〕 * 簡潔に分かりやすく、できるだけ定量的に。

ITC愛媛は、平成19年度以降、愛媛地域IT経営応援隊事業として、金融機関とのネットワークの形成強化に取り組んでおり、今年度については、「IT経営の関する理解と協力」が得られる金融機関に絞って、支援ネットワークの形成、特にキーマン教育(機能強化)を実施する。

このキーマン教育を起点にIT経営実践候補企業の発掘・創出への個別指導にナビゲーションしていくため、中継研修として中堅・中小企業経営者向けの1日経営者研修を開催する。

経営者研修会には、3社6名以上10名程度に参加してもらい、そのなかからIT経営実践企業(中小企業IT経営力大賞応募企業)へ育成するための継続支援対象を1社以上発掘する。

〔研修会事業の概要〕

主な内容は、①オリエンテーション「IT経営とは、事例紹介」、②ケース研修「ハッピー紙器(製造業)」、③支援制度の紹介、で構成した。

課題1の演習問題は個人作業としたが、課題2以降については、個人作業の後にグループでの意見交換を行った。

〔研修会事業で使用するテキスト〕

ITコーディネータ協会作成教材である1日経営者研修会テキストを使用し6時間コースを実施した。

〔研修会事業での成果〕

1. 目的・目標に対して実現した成果

12社12名の参加を得て、3グループを編成し研修をすすめることができた。
このうち、アンケート回答から講師等によるフォローアップ対象として3社を抽出した。

2. 研修会事業で参加者の今後の活動に期待される成果

成果物をもとに今後何らかのアクションを起こすとの回答が2社、半年以内の実行予定が3社と、今後のIT経営実践意欲が高まっていることが窺える。

参加者においては、経営戦略が策定されているところはまだまだ少ないものと思われる。そのような意味では、現状事業ドメインによる現状業務の事業領域の把握、SWOT分析、社長の思いの整理など、ワークシートや自社分析用フォームなどはかなり参考になったと思われる。

また、戦略策定のプロセスを体験するとともに、プロジェクトチームを組織しての合意形成の重要性にも気づいてもらえた。

なお、研修の最後にはフォローや個別指導などの支援施策も紹介しており、実践企業の創出に寄与できたものと考えます。

〔研修会事業の評価〕

1. 研修会事業の成功要因

昨年度から引き続き愛媛銀行との連携をすすめていくこととなったが、(株)西条産業情報支援センターには愛媛銀行からの出向者がコーディネーターとして活動しており、太いパイプがある。

愛媛銀行との打合せや各種会議においては、(株)西条産業情報支援センターと一緒に出席し説明していくことで、連携事業であることをアピールし、営利目的の営業活動ではないことを理解してもらえたものと考えます。

また、今年度は銀行内のキーマン発掘、キーマン研修を実施するとともに、銀行のマッチングイベントとも連動したIT経営個別相談会を開催するなど、IT経営実践企業候補の発掘の主旨及び経営者研修の集客活動に協力してもらえたことができた。

2. 研修会事業での課題

マッチングイベントの開催時期から1ヶ月程度、間隔をとるために開催時期が当初予定から20日間程度、ずれ込んだため、開催時期が年末の繁忙期に重なってしまった。

このため、遅刻者や早退者が多く出てしまい、研修効果を実感できるレベルに到達できた受講者は6割程度に留まったことである。

このような意味からは、次年度も開催のチャンスがあれば、連続開催ではなくて1ヶ月程度間隔を空けて開催することも検討したい。

3. 研修会事業に対する実績評価・感想

目標を上回る集客に成功し、フォロー対象を3社確保できた。

今後、財団とも連携しながらフォローを行い、IT経営実践企業へとナビゲーションしていくこととしており、発掘段階は成功したと言える。